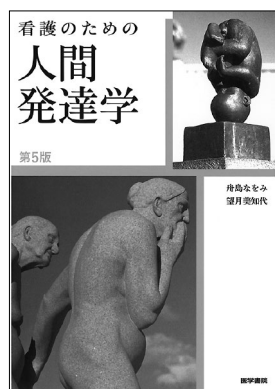


『看護のための人間発達学 第5版』 専門領域の基盤となる、 対象理解にまずこの一冊

著：舟島なをみ・望月美知代／定価：本体 3,000 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



1995年に初版を見て「この本を学生のときに読みたかった」と思いました。人間の発達を「心」と「体」の両側面から論じ、その関連性が述べられた本は私の学生時代にはなかったからです。

本書は、人間のライフサイクル各段階の心身の発達過程と健全な発達に影響を及ぼす因子と発達に必要な支援について述べられています。通読すれば胎児期から老年期を経て死に至るまでの一生涯の変化を概観することができます。また各発達段階について詳しく知りたい場合も、各章を開けば必要な知識が得られます。

看護は、あらゆる発達段階にある人たちが対象であり、また対象理解が重要です。しかし、自らの限られた経験で対象を理解することは、難しいことです。そのようなとき、本書は、対象を理解するための基礎をつくることができます。

本書は、Ⅱ部構成となっています。第Ⅰ部は人間発達学の概説です。人間発達学の意義や用語の定義、発達における共通性や影響を及ぼす因子、現代までの発達理論を取り上げています。第Ⅱ部では人間のライフサイクルとその発達について、胎児期から乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期まで述べられています。心身の正常な発達、健康上の問題、必要な支援、社会資源についてわかりやすく解説している点から本書は、学生の教科者や参考書として非常に優れてい

ます。また章扉に掲載されているピーゲラントの彫刻の写真は、各発達段階のイメージを湧き起こさせ興味と関心を引きまします。

本校では、対象理解のために「人間発達学」という科目を1年次に設定し、教科書として初版から本書を使用しています。さらに小児看護学や成人・老年看護学では参考書として用い、胎児期から取り上げられているため、母性看護学でも活用しています。

本書を初版より教科書としている理由は、現在の社会の出来事との関連を反映させている「時代性」です。第5版に至るまで、変容する社会情勢とライフサイクル、そのなかで生きる対象を理解するための情報が多様な研究データをもとに追加され続けています。それらは第5版では、さまざまなデータ類の更新はもとより、子どもの貧困、ワーク・ライフ・バランスや定年退職といった今日的な話題が加筆されています。

本書は、対象理解に留まらず、本書で学ぶその人自身の手引書にもなります。現在の発達段階から過去を振り返り、今後たどっていく発達段階を知ることで改めて自分自身と向き合い、今後の生き方を考える機会となります。

専門領域にとらわれず、学生を対象・自己理解を進めたい教員のみなさんに、手に取っていただきたいお勧めの一冊です。